

企画・編集：東 美菜子 宮崎大学医学部 病態解析医学講座 放射線医学分野

序 説

近年、医学の世界では、分子遺伝学や免疫学などさまざまな領域で飛躍的な進歩がみられ、現代の診断・治療体系を劇的に塗り替えました。かつて確立された従来の知識体系が、今なお臨床の根幹をなす重要な規範であることは論をまちません。しかしその一方で、既存の枠組みだけでは解釈が困難な複雑な病態も次々と明らかになっており、われわれは、かつてないスピードで押し寄せる知識の波を絶えずキャッチアップしていくことが求められています。

しかし、医学の専門分化が進む今日、全身の広範な領域を網羅し、そのすべてにおいて最先端を走り続けることは至難の業です。日々の多忙をきわめる臨床現場においては、新しく提示された疾患分類や概念を断片的なニュースとして受け取るに留まり、既存の知識と有機的に結合させて再構築する余裕がないまま、実際の診療に当たっている場面も少なくないのが実情ではないでしょうか。画像診断の領域も例外ではありません。最新の疾患概念や絶えず改訂されるガイドラインへの適応は不可欠な責務ですが、膨大な読影業務をこなしながら、独力でそれらを体系的に学習し続けることには自ずと限界があります。

そこで本特集「中枢神経領域 知識の再整理」では、放射線科専門医を目指して研鑽を積まれている若手医師の先生方や、中枢神経領域の画像診断に苦手意識をお持ちの先生方を対象とした、画像診断をするうえで再確認してほしい知識の体系化を主眼として企画いたしました。情報の断片を単に積み上げるのではなく、どう実診療に結びつくのか。中枢神経領域のエキスパートの先生方に、再確認・再整理が必要なトピックを臨床的な視点から紐解き、わかりやすく解説していただきました。

本特集を通して、これまで中枢神経領域の画像診断を敬遠されがちであった先生方も、日常診療において確信をもって画像診断をしていただき、また、今後参加される学会や研究会での理解をより深めていただければ幸いに存じます。

目まぐるしく変化する時代だからこそ、一度立ち止まってみつめ直す。そのプロセスが、臨床現場において次の一步を導き、明日の診療の一助となることを切に願っております。

最後になりますが、本特集のためにお忙しいなか素晴らしい原稿を作成してくださいました先生方へ、この場をお借りし心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

東 美菜子